

# one

# 11号

2001年・秋号

「もはや二人ではなく一体 (one) である」 マタイ19:6

今年も11月4日(日)に結婚感謝の集いが開かれます。  
懐かしい教会、セミナー仲間やヘルパーたちと  
楽しいひとときを共に分かち合ってみませんか？



## Information

今年もまた結婚感謝の集いがあります。  
日時：2001年11月4日(日)午後3時～  
場所：聖イグナチオ教会主聖堂  
懇親会：午後4時～ ヨゼフホールにて

今年七五三のお祝いを迎えるお子様は、  
神父様から祝福を受けることができます。  
「集い」終了後、懇親会パーティが開か  
れます。(参加費無料)  
小さいお子様連れ大歓迎です。ご家族お  
揃いでおいでください。

ご意見・ご感想は  
e-mail:one@ignatius.gr.jp

## 「15年後の祝杯」=結婚セミナー・ヘルパーこぼれ話=

城間 正人

あれは、1985年7月開講のセミナー  
でした。その頃、教会では結婚  
セミナーが始まったばかりで、何  
もかも粗削りだが、熱気がムンム  
ンしていて、私たちヘルパーも若  
さ(?)を武器にずいぶん無鉄砲で  
した。

さて、そのセミナーに、北海道出  
身の卓也さんとそのフィアンセで沖  
縄出身の奈保子さんがおりました。

二人とも20歳前半、まあ純朴と  
可憐が並んだようなカップルでし  
たね。そのうち私たち夫婦はすっ  
かり彼らと仲良くなって、披露宴  
のコーディネーターを引き受ける  
ことになりました。

私はそこで一計を案じ、会場の  
中央部に大きなスペースを空けて

もらいました。そして、参加者に  
できるだけ多くの、北と南の歌と  
踊りを披露してもらうことにした  
のです。全員参加のダンスタイム  
も設け、披露宴は大いに盛り上  
がったことはいまでもありません。  
私は、北海道と沖縄の二人が東京  
で結ばれたので、この結婚を「蝶  
ネクタイ婚」と名づけました。

その後、一男二女の子宝に恵ま  
れ、私たちは彼ら家族と、毎年ク  
リスマスに会うのを楽しみにして  
いました。そして2000年の正月、  
突然、「4月のイースターに家族5人  
揃って洗礼を受けます。ついては  
代父、代母をお願いしたい」とい  
う申し出を受けたのです。

「エッ?!家族5人一度に?」と私た  
ちは卓也君、奈保子さん、優太君  
(小5)、優里那ちゃん(小2)、  
優菜乃ちゃん(幼)の5人の顔をな  
がめながら、啞然としました。

しかし、卓也さんの話を聞くう  
ち、15年前のセミナーにこの日の  
芽があったことを知りました。洗礼  
式のその日、私たちは彼ら家族との  
15年間を振り返りつつ、新しい人  
生のスタートを共に喜び、一緒に  
祝杯をあげました。



## 司祭からのメッセージ

フェリス・ロボ

「愛のないところには愛の種を蒔きなさい、やがて愛が芽生えるだろう」

— 十字架の聖ヨハネ —



皆さんは夫婦の間で何か不満に思っていることはありませんか?妻の、または夫のここが好きじゃない、どうにか変わってほしい、と考えることはありませんか?

夫婦とはいえ、別々に育ってきた別々の人間ですから、そう思うことは何も不思議なことではないのです。相手に関心が、愛情があるからこそ、もっと向上して欲しい、前進して欲しいと願うことはむしろ当然のことといえます。

でも、ちょっと立ち止まって、考えてみましょう。ここに私が大きな感銘を受けた、心の中で大切にしている物語があります。インド人のアントニー・デ・メロ神父の著作の中にある“Don't Change”というお話です。

—私はとても神経質で、心配性で失望ばかりしていた。周りから変わるべきだと言われ続け、親友でさえ常々そう言っていた。そして自分でも変わりがかった。でもどうし

ても変われなかった。ところがある日、その親友は言った、「変わることはない。そのままの君を僕は愛していることがわかったんだ。」すると不思議なことに私が変わってきたのだ。変わることができたのだ。そして私は理解した、「ありのままの自分を本当に愛してくれる人がいると知った時、人は本当に変わることができるのだ」と。

これを読んで、こんな考え方は甘すぎる、と思う人も中にはいるでしょう。

でも、神様は私たちをこのように愛してくださっているのです。聖書の中の「愛の賛歌」(コリントI13:4)にあるように、愛はすべてをしのび、すべてをゆるし、決して滅びることはないのです。

皆さんも、妻に、夫に変わって欲しいと思う前に、ありのままの相手を受け入れ愛してみましょう。そこから何かが変わるのですよ。



「イヌも食わない」と言われる夫婦ゲンカですが、  
どんなに仲の良い二人でも一度くらいは経験ありますよね？



ほんの小さな心のすれ違いが「売り言葉に買い言葉」で、思いもよらぬ事態に…。

①neでは、夫婦ゲンカを風邪に診立ててみました。

誰でも時々風邪をひきますが、多くの場合は「すぐ治る」と思っています。

でも油断大敵、こじらせると肺炎にもなりかねません。ただの風邪と思っていたのが、  
恐ろしいインフルエンザとか他の病気かも…。風邪も夫婦ゲンカも、ひどくならないうちの治療が肝心。  
さあ、あなたのカルテを作ってみてください。

### 診断カルテ

#### 【 症状 】

- |      |  |                          |                          |
|------|--|--------------------------|--------------------------|
| 夫    | ：「『あなたはいつもそう言う』って言うけど、『いつも』っていつさ。」                         | YES                      | NO                       |
| 妻の本音 | ：（そうだけど、でもホントに『いつも』だから言っちゃうのよね。）                           | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 夫    | ：「運転しているのはこっちなのにうるさく『あの道の方が流れてた』なんて言うなよ。」                  | YES                      | NO                       |
| 妻の本音 | ：（だって、あなたがイライラしているから、アドバイスしてあげたつもりなんだけど…。）                 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 夫    | ：「給料や出世のことに触れて欲しくないね、一生懸命やってるんだから」                         | YES                      | NO                       |
| 妻の本音 | ：（たしかに、これはマズかった。つい文句を言いたくなっちゃって…。）                         | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 夫    | ：「お客を招ぶのは君も賛成したんだよ。完璧じゃなくて良いじゃないか。<br>そんなにイライラしないでよ。」      | YES                      | NO                       |
| 妻の本音 | ：（準備するのは私なのよ。普段手伝ってくれないから、いざという時ちっとも役に立たないじゃない。）           | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 夫    | ：「あの時も、この前もって、前のことをくどくど言われても不愉快になるだけだね。」                   | YES                      | NO                       |
| 妻の本音 | ：（でも傷ついたのは私なの。ちゃんと聞いてよ。）                                   | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 夫    | ：「僕だって、太郎をお風呂に入れたり精一杯やってるんだよ。」                             | YES                      | NO                       |
| 妻の本音 | ：（お風呂、お風呂って、さもやってるように言うけれど、私は一日中よ。）                        | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 妻    | ：「自分のことばかり考えて『風呂、めし、寝る』って何様のつもり!？」                         | YES                      | NO                       |
| 夫の本音 | ：（ちょっとオヤジっぽかったかなあ。でも家でくらい威張ってみたいんだよ）                       | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 妻    | ：「ちょっと！私の言うことを無視しないでよ。辛いから訴えているんじゃないの。」                    | YES                      | NO                       |
| 夫の本音 | ：（こっちも一休みさせてよ。帰ってくるなりギャーギャー言われたって。）                        | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 妻    | ：「そんな事わかってるわよ。いちいち『申し訳ありません』って謝らなくちゃいけないの？」                | YES                      | NO                       |
| 夫の本音 | ：（自分で欠点だとわかっているのなら、開き直るなよ。素直に反省してもらいたいね。）                  | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 妻    | ：「あなた、いつも大切な時にいないじゃないの。花子が生まれた時だって、<br>あなたはお義母様の用事でいなかった。」 | YES                      | NO                       |
| 夫の本音 | ：（君だってお袋の気性は知ってるだろう？いつまでも言うなよ。）                            | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 妻    | ：「何も私の言った通りお義母様に言うことないの。逆効果じゃない、バカみたい。」                    | YES                      | NO                       |
| 夫の本音 | ：（じゃあどうすればいいのさ。）   | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

あなたに、思い当たる症状はありませんか？

鼻風邪にとどまらず、恐ろしい肺炎になりそうな症状はどれでしょう？

寝こまないですむようにするにはどうしたら…？



## 診断カルテ

### 【 診察所見 】

いろいろな症状が出ましたね。一般的に言って「ケンカ」とは次のように考えます。

### 「ケンカ」とは？

二人以上の人が対立する場合、次の三種類の帰結を見ることが多い。  
つまり、ケンカ・話し合い・無関心である。  
無関心は予後不良であるが、ケンカ・話し合いは回復の見込みが高い。

そのうち「ケンカ」とは感情のコントロールがきかなくなった状態、すなわちお互いに聞く耳を持たないで対立することである。

相手の話聞く耳を持っているうちは「ケンカ」ではなく「話し合い」であり、「ケンカ」と「話し合い」の診断の区別は、案外難しい。

この二つの症状は非常に似ているが、精密検査をすれば、次のような「ケンカ」特有の症状で判断が可能である。

- 1 「ケンカ」には感情のモヤモヤが顕著に見られ、「話し合い」にはモヤモヤが皆無か、あっても非常に少ない。
- 2 「ケンカ」には、「思い込み」が潜んでいる。これは特に夫婦間の「ケンカ」に、よく見られる症状である。「相手も当然、同じように思っているはず」という「思いこみ」は、誰よりも大好きで、理解しあっているはずの配偶者が「わかってくれない」という苛立ちにつながる。他人との意見の対立が「話し合い」となっても、夫婦間の対立は「夫婦ケンカ」となる場合が多い。

### 【 処方箋 】

- ・自然治癒…この程度なら大丈夫、ほっとけば治る、治る。
- ・一人でドライブや、散歩に行く…そうです、一人で気を静めれば、相手を思いやる余裕もできる。
- ・ひたすら、相手に謝る…自分の謝る姿に相手が笑えばしめたもの、これぞ平和に暮らす「生活の知恵」
- ・寝る時は必ず一緒に…あらかじめ仲の良い時にそう決めておく。さもないと蹴っ飛ばされたりして逆効果。
- ・妻：とびきり美味しい食事をつくる…仲直りをしたい気持ちが確実に伝わる。
- ・夫：喧嘩の翌日、妻の好きなケーキ、花を買ってくる…上と同じ。
- ・手紙で謝る…いまどきはメールかな？
- ・もちろん原因を調べて、じっくり話し合ったすえ、根治治療に努める。

### 仲直りの大切さ…「災い転じて福となす」

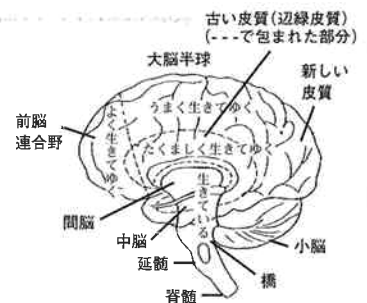
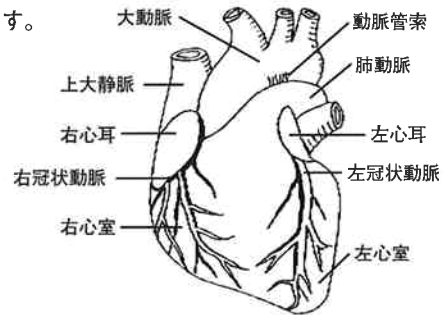
夫婦にとって「ケンカ」はひとつのコミュニケーションの方法—こう考える夫婦は多いと思います。確かに、お互いの考えを率直な形で知るには効果的な手段になり得るでしょう。

自分の中の悶々とした思いや感情を抑え込んで悩むよりは、相手にはっきり伝えた方がいい。なにしろ二人は「夫婦」という、特別な絆で結ばれているのですから。

お互いの「思いこみ」が表現の仕方によって、「ケンカ」に発展しても、正直な心のぶつかり合いは、夫婦ふたりの理解を深め、あるいは誤解を解くことにつながる

かも知れません。でも、そうなるためには、仲直りが大切。ケンカの後、二人が必ず仲直りできるという信頼の中から、夫婦にとって大きな安心感、そして日頃のお互いへの尊敬、あるいは大事にしたいと思う気持ちが育まれていくのだと思います。それに、仲直りした後の嬉しさ、幸せ感はまた格別ですよね。

そして、もし子どもの前でケンカをしてしまった場合は、子どもに仲直りの場面もしっかり見せましょう。人間関係は修復可能という大きなプラス要素を子どもに与えることになります。



# 心のわだかまりは消えるでしょうか？

Q

夫が浮気をしていたらしい事がわかり、けんかを繰り返した末、話し合いました。彼ははっきりとはありませんが非を認め、生活を改めると約束し、約束を確かに実行していると思います。今は外見上平穏な毎日ですが、私は信じていた夫に裏切られたという気持ちが消えず、折に触れてむしゃくしゃし、つまらないことで夫と言い争うことも度々です。この心のわだかまりは消えるでしょうか？



A



粟本 昭夫

辛いと思います。でもこれはあなたの心の問題で、私にはどうしたらよいということはできません。気晴らしのために、仕事、趣味に精を出すのも良いかもしれませんが、私は次のことを申し上げたいと思います。少しでもあなたが楽になるきっかけになれば、嬉しいです。

一夫一婦制を法で定めている現代の日本社会、しかもカトリック教会で結婚式を挙げられたあなたがたにとっては、浮気は悪いことであり罪です。そして悪を正し、罪を罰するのは正義です。そう認識した上で、次のことを考えてみてください。

## 正義とは？

世の中にはいろいろな考え方があり、どれが正しく、どれが間違っているといえないものもたくさんあります。したがって全ての人の正義が一致するとは限りません。一人一人が自分の正義を主張すれば、それは必ず争いになります。それは過去の歴史が証明しています。正義の名のもとであらゆる残酷な争いが行われてきました。そこで、多くの人で成り立ち複雑な組織である社会を安定させ、人々が平和に暮らすために、社会は便宜上正義を決めます。それが法ともいえるし、社会的に広く認められた約束事、倫理観ともいえるでしょう。正義にはあいまいさがなく、人を断罪するという側面があります。そして社会は基本的には正義で動いていきます。

## 家庭とは？

家庭はお互いの命を支え、育む安らぎの場です。ここで基本となるものは愛です。クラスやセミナーで話し合われたように、愛は人を受け入れ、赦すものです。

赦すことは弱さでも譲歩でも敗北でもありません。正義を振りかざすことは誰にでもできます。子供や成熟していない大人は正義を主張しますが大人になった大人は正義よりも愛を選びます。愛と正義は相反するものではありませんが、愛は人間一人一人に、正義は社会に基準を置くということで、次元が違います。家庭にはいつも正義が必要とは限りません。むしろ家庭に正義を持ち込みすぎると、家庭は社会になってしまいます。

正義のみが支配する所は家庭とはなり得ないともいえるでしょう。また家庭で正義に縛られすぎると自分が苦しくなります。

ご主人とは良く話されたようなので、あとはご自分自身を温かく見守ってください。そして赦すことです。心から赦しなさい。そうしたら必ず心が安らかになります。あなたの痛みは時が和らげてくれる場合も多くあることを付け加えておきます。





少し前に父さんと朝のニュース番組を見ていた時、君に「ハンセン病訴訟、控訴断念ってなあに？」と聞かれたね。あの時は出かける前で、気がせい、父さんが伝えなかったことはうまく言えなかった。

ハンセン病という、聖書にも登場する古い病気がある。130年くらい前に、ハンセンというノルウェー人がばい菌を見つけたので、「ハンセン病」と呼ばれるようになった。少し前までは「らい病」と呼ばれていた病気だ。昔は人に簡単にうつり、手足がとれるなどと誤解された。本当はうつりにくい病気だし、うつっても病気が出ないことの方が多い。それにこれで死ぬこともない。いままでは完全に薬で治せるようになった。

この病気にかかると、キズやヤケドをしてもわからないことがあり、それが原因で顔や手足の形が変わることがあるので、昔はこわい病気だと考えられていた。だから聖書の時代から、ハンセン病にかかった人は、皆から嫌がられ、家族から引き離されて、別の場所に住まわされてきた。これを「隔離」という。好きな人たちに二度と会えないまま人生を過ごす人がいっぱいいたんだ。

日本では「らい予防法」という法律が、1907年にできて、この病気にかかると、必ず「隔離」されるようになった。そしてこの法律は、病気を治す薬が見つかり、1950年代には、「隔離」が必要ないことが世界中で認められてからも、そのままになっていた。そして、やっと1996年に「らい予防法廃止法」ができて、「隔離」されなくてもよくなるまで、40年以上もたくさんの方がすごく悲しく、辛い思いをしたまま放っておかれてきた。悲しいまま死んでしまった人もたくさんいる。

そこで、長い間「隔離」されてきた人と、その人たちを助けている人たちが、国に対して、今まで間違っていたことを認めて欲しいと言ったんだ。ところが国はぐずぐずして、なかなか間違いを認めなかった。しかし、ついにこのあいだ認め、謝った。このあいだのニュースはそのこ

とだった。

父さんと見たニュースは、国に対して長年自分たちの考えを言ってきた人たちの勇気の結果だ。この人たちは、本当の意味での強い人たちだ。その強さを「勇気」と言っていていいだろう。そしてこの人たちはとても大事なことをぼくたちに教えてくれた。ぼくたちがどんなに無関心だったかということだ。誤りを犯したのは国だけではない。父さんを含む全ての大人たちだ。日本の政府、役所、お医者さんたち、そして父さんたち全ての日本人の無関心が、取り返しのつかない悲しい思いを多くの人にさせてしまったんだ。この間違いを繰り返さないようにしよう。



この病気をこわいと思う気持ちはまだ世の中にある。エイズという病気に対してもそうだ。エイズは治し方がまだ分からない。でもエイズにかかった人と一緒に暮らしても、ご飯を食べたり手をつないだり、抱き合っても大丈夫。うつらないんだ。正しい知識を持とう。事実を知ろうとすることが大事だ。そしていやがらせ、差別を受けている病気の人がいいたら——いや、病気の人だけじゃなくて誰でもだ——その人を助ける勇気を持とう。君も友だちから仲間はずれにされたら悲しいだろう。それと同じ。これは君にも、母さんや父さんや君の妹にも、友だちのケンちゃんやナナちゃんにとっても、関係のある話だ。関係のない人は一人もいない。

勇気を持とう。無関心から離れる勇気、正しい知識を持とうとする勇気、差別と戦う勇気を。(T.F)



[参考ウェブサイト]

日本財団

「ハンセン病とは—ハンセン病は治る病気です—」

[http://www.nippon-foundation.or.jp/what\\_n/n\\_hansen\\_hansenbyo.htm](http://www.nippon-foundation.or.jp/what_n/n_hansen_hansenbyo.htm)

## 新刊書紹介

これを読めばたちまち「お掃除大好きになれそう!」と思えるスグレもの!!

『そうじの女王が教える世界一のそうじ術』 リンダ・コブ著 中尾眞樹訳

ポップなイラストの表紙に惹かれて軽い気持ちで手に取ってみると、そこには家の中の、あらゆる場所の掃除方法が書かれている。それも、著者が、「何が入っているかわからないような化学洗剤」を使わない掃除の方法を見つけたい!との思いから、昔からのやり方を見直したり、次々と発見したりのユニークな方法である。パラパラと流し読みするだけでも多くのひとは目からウロコが落ちるような発見があるに違いない。

たとえば、お酢の活用。バスルームの汚れを落としたり、調理中のニオイ消しに使ったり、洗濯の際に衣類を柔らかくしたり、思いもよらないような使い方が載っている。また、たとえば重曹。鍋にこびりついた汚れや、網戸の汚れを落したり、ペットのトイレにまいてニオイ消しにしたり。そのほかにも粉末カラシ、ホウ酸、ティーバッグ、レモンなど、家にあるものや雑貨店、薬局などで手軽に買えるものばかりを使った方法が紹介されているので、読後にさっそく実行できる。

この本は、「有害な化学薬品」を使わずに、身近にあるモノでできる簡単なコツを紹介している点が、全米でウケているそうである。このことは、いかに人々が巷にあふれているクレンザーや消臭剤に対して疑いのまなざしを向けているか、ということにほかならない。家族の健康を思えば、誰だって体に無害なものを使って掃除したいし、生活を送りたいと願っているのだ。

あなたもさっそく今日からお掃除方法を変えてみては…。(アーティストハウス ¥1200)

☆訳者は今年2001年5月に、アルフレド・セゴビア神父の結婚セミナーを終了し、聖イグナチオ教会で挙式したばかり。早速本書をoneに紹介して下さったことを心から感謝したい。(新米主婦J.F)



## = 我が家に娘がやってきた =

満尾 佳子

結婚6年目の40歳と39歳の私たちに娘が授かり、親になりました。昨年の7月のことです。そろそろ二人の生活を確立しつつある時でした。最初はひ弱な生き物のようだった娘は日に日に、まるで人類の進化を見るようにすくすくと成長し、今や本人の意志を強く感じます。

比較的高年齢で子供を授かった私たちは、おそらく、娘の同級生となるお子さんたちのご両親とは一回りくらい!?年齢差があると思います。年の功を発揮したいと願いつつ、親としては同じ一年生。これからがスタートです。

娘が心身ともに健康で、自分の考えをしっかりと持てるように

導き、応援し、見守っていきたいと思っています。

…と、理想はこの上もなく高いのですが、実際の一年余りはドタバタの毎日で、生活のリズムをつかめないまま夫婦の役割分担に悩み、体力の衰えを感じ、お部屋は片付く暇もなく、食事や睡眠すらも充分でなく、ボロボロの生活を送っています。子供のいる生活は、夫婦ふたりの生活とは異なり、すべてに「割り切り」が必要であることも娘が生れてはじめて認識したことです。

こんな状態でも娘の満面の笑み、小さな「できた、できた!」の喜びですべての苦勞が吹き飛び、幸せを感じます。娘は私たち夫婦にとって、本当に大切な宝物であり、この恵みに感謝しています。私たちの親もかつてこのように見守ってくれたのかと思うと、今更ながら感謝です。これからも多くの人と接しながら子供と共に成長していきたいと思う毎日です。

### — 編集後記 —

oneに参加してから2年半、今回初めて編集長として11号の制作に携わりました。

今までは担当箇所を仕上げてしまえば、「はい、おしまい」というカンジであれば、全部編集長に任せしていた私。

今号は、まさに原稿が私をめぐって押し寄せてくるのを感しました。

押し寄せる原稿の波の中で、その一つ一つの潮の流れを読み、大きな流れを作っていくのが私の役目でした。

そのためには、何よりも「編集長が明確な指針を示すこと」が求められていることを教えられました。

今回、果たしてそれが成功しているのかどうか、その評価は読者の皆さんに委ねるとして、編集スタッフや家族の協力のありがたさを改めて認識したよい経験だったと思っています。

(one 11号編集長: 森本亜希子)

### 編集参加者(五十音順)

内田京子  
神谷智子  
菊池雅子  
小林ゆき  
城間正人  
鈴木肇  
鈴木庸子  
武田伸子  
玉木健太郎  
福富達夫  
福山順子  
森本亜希子  
柳谷晃子  
山本浩

発行: 2001年10月発行  
聖イグナチオ教会 one 編集局  
(担当: 城間正人・鈴木庸子)  
〒102-0083  
東京都千代田区麹町6-5  
Tel: 03-3263-4584  
Fax: 03-3263-4585  
URL: <http://www.ignatius.gr.jp>  
e-mail: [one@ignatius.gr.jp](mailto:one@ignatius.gr.jp)

印刷: (株) 六甲出版  
兵庫県神戸市灘区岩屋北町3-3-18

この冊子は再生紙を使用しています。